



桜つつみから越前大仏を望む



九頭竜川の堤防上に植え込まれた桜は将来の郷土の風景となる



市民の手による桜の苗木の植え込み

## 17 桜つつみ整備事業



DATA・BOARD ⑰

- ① 福井県勝山市立川町～下高島
- ② 延長：約500m，幅員 4～5 m
- ③ 京福電鉄越前本線勝山駅から徒歩20分，北陸自動車道 福井北ICから車で約40分
- ④ 越前大仏，恐竜化石群ほか
- ⑤ 弁天桜まつり

九頭竜川は、水系の環境保全と流域の活性化をめざした建設省のドラゴンプロジェクトのモデル河川に指定されており、その上流部に位置する勝山市では、水辺を活かしたまちづくりを進めている。

勝山橋を挟んで一・五キロにわたる九頭竜川堤防には、昔から一目千本といわれる弁天桜があり、多くの人々に親しまれてきた。

「桜つつみ整備事業」は、この桜並木を弁天桜から南大橋までの上流部を第一期に、さらにその上流部の下荒井橋付近の女神川までを第二期として整備を進めているものである。

整備にあたっては、勝山市が五人の職員で用地を買収し、そこに福井県が土盛りを行った。また、桜の植樹に際しては、市民だけではなく県内外からも希望者を募集して行い、苗木管理や育成は植樹した人の協力を得て行われている。

桜並木は、周囲の山並みなどと調和した美しい景観をつくり、四季を通して市民の憩いの場となっている。